仙北市病院事業　医療局
令 和 ８ 年 11月 24日

仙北市病院事業経営健全化計画に関する第２回住民説明会の開催結果について

１ 概要

令和８年６月から７月に実施しました第１回目の説明会に引き続き、病院再編による田沢湖診療所（仮）及び統合病院の目指す具体的な姿、今後の地域医療体制等を説明し、かつ住民の皆様よりご意見・ご質問を伺うため、第２回住民説明会を市内５か所において計７回を開催しました。

２ 実施日、参加人数等

日時	会場	参加人数
１０月２０日（火） 18：30 ～ 20：00	田沢湖庁舎　１階　会議室 102・103	２３人
１０月２１日（水） 18：30 ～ 19：20	桧木内地区公民館　２階　大会議室	４人
１０月２７日（火） 18：30 ～ 19：30	就業改善センター　２階　集会室	８人
１０月２９日（木） 18：30 ～ 19：10	西木総合開発センター　２階　集会室	１人
１０月３１日（土） 10：00 ～ 11：30	角館庁舎　１階　101・102 会議室	９人
１１月　５日（木） 18：30 ～ 19：30	角館庁舎　１階　101・102 会議室	３人
１１月　７日（土） 10：00 ～ 12：00	田沢湖庁舎　１階　会議室 102・103	２２人
合　計（延べ人数）		７０人

※時間は開始から終了まで

3　皆様からのご意見・ご質問とそれに対する回答・見解（要旨）

○ 田沢湖診療所（仮）について		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
1	田沢湖診療所の人員体制に放射線技師や検査技師などを加えて、いつでも検査等できるようにしてほしい。 また、角館にはないＣＰＡＰ外来の継続についても検討してほしい。	今回お示ししました診療所の体制は、西明寺診療所を参考にして構想したものとなり、感染症から一時的な体調不良、切り傷・刺し傷・軽い火傷など軽症を中心とした診療を実施する想定です。 より具体的な体制につきましては、今後招聘する医師と協議しながら検討することと考えております。
2	田沢湖診療所の診療時間はどうなるか。	午前・午後の一日とする予定です。
3	訪問診療も実施するということだが、その場合医師１名で対応できるのか。	訪問診療については週１回程度実施するという想定でおりますが、地域が非常に広くなるため、オンライン診療の活用を検討する必要があると考えております。 例えば、西明寺診療所のように「医療 MaaS」を活用し、医療機器を搭載しかつ看護師も同乗する車両で向い、医師は診療所にいながらオンラインで診察可能となる仕組みなどを考えております。
4	田沢湖病院が診療所となることに伴って生じる遊休スペースの活用について、どのような議論がなされているか。	２階スペースの活用については今まさに検討が始まったところであり、具体的なところは決まってはおりませんが、市としては、田沢湖駅前の施設ということもあって有効活用していきたい考えです。 できれば民間の事業者へ貸付を行い、そこから収入を得る形式が望ましいという考えもありますが、一方で現行の田沢湖庁舎も老朽化が進んでいることから、行政機能を移転させるというようなことも検討の一つとなります。
○ 統合病院（角館総合病院）について		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
5	今年度上半期の実績ベースで見た場合、どれくらい改善が進んでいるか。	角館総合病院では、１日平均入院患者数を 135 人として年度目標を立て取り組んでおりますが、上半期終了時点でその数値をキープできている状況です。また救急搬送の受け入れについても、要請があった際「絶対に断らない」ことを原則として対応に努めており、現時点で救急応需率は９割を超える実

		績となっています。これらの要因により、約２億円の収益増を見込んでいます。加えて、市本体からの繰入金も約２億円増えておりますので、合計で約４億円の増収となります。 　他方、費用面では諸経費の削減に努めながらも、金利上昇などの影響により、年度当初よりも約１億円の増大となり、差し引きで約３億円の改善となる見込みです。
6	田沢湖病院だけを縮小すればそれで解決という考え方になっていないか。むしろ角館総合病院を改善すべきなのではないか。	持続可能な医療提供体制に向けては入院機能を集約化することが必要ですが、ご指摘のとおりそれだけではなく、角館総合病院の改善も必要不可欠です。 　そのために不採算診療科や非常勤医師の招聘に関する見直し、人員の縮小などいわゆる高コスト体質の改善を進めながら、同時に収益確保に努めてまいります。
7	角館総合病院にはたくさんの診療科があり、いま示された２つの診療科のほかにもまだまだ休止すべきものはあるのではないか	今回お示ししている呼吸器内科、心臓血管外科のほかにも、患者数の少ない「不採算診療科」はございますので、これらの休止については今後も検討してまいります。 　ただ一方で、地域内に専門の開業医がいない、なおかつ重要な診療科については、例え赤字であっても継続させる必要があるものと考えております。
8	入院集約にあたって田沢湖病院から転院となる方々を受け入れできる機能が角館にあるのか。また、そのために病床を増やすとしてその根拠はどういうものか。	角館総合病院に療養病床を 25 床程度増床して対応する予定としております。 　この数の根拠としては、現在田沢湖病院の入院患者は 35～40 人程度で推移していますが、そのうち医療必要度が高い方は半分以下という状況です。 　そのため 25 床程度あればこれらの方々を受け入れすることは可能であるという試算です。
9	「高齢者救急」ということで、高齢者を重視した体制にシフトしていくという方針のようだが、これにより、田沢湖病院のように診療単価が低下し、結果経営悪化するという事態にならないか。	「高齢者救急」については、例えば誤嚥性肺炎のように、高齢者に多くみられるものの、１～２週間以内には治療を終えて入院期間が長くならないという症例が今後さらに増えてくることに基づくものです。 　そのため、いわゆる療養病床のように長期間入院するということを想定したものではないということをご理解ください。

10	今年度に入ってからも、まだ納得のいかない受診の「お断り事例」を耳にする。これについてどう対応していくか。	前回の住民説明会でもスタッフの接遇対応等で非常に厳しいご指摘がありましたので、院内に持ち帰り、幹部会議や職員説明会等で周知いたしました。また、角館総合病院が掲げる基本理念にもう一度立ち返った対応を意識付けるよう、理念を院内各所へ掲示し、かついつでもそれを確認できるよう各員の名札裏などに貼り付けるようにしております。 ただその中でも、お断りの事例が発生してしまったことについては、大変申し訳なく思います。このような事例については、現場のみで完結させないよう、報告体制を整備してまいります。
11	入院の受け入れを積極的に進めているところとは思うが、一方で半ば追い出されるかのように退院させられたという方もいるようである。	個別の事例を把握しているわけではありませんが、一方で入院病棟における運用には難しいところもあり、新たな患者さんを受ける場合、状況によっては経過が良好な患者さんに退院していただく、あるいは施設に移っていただくというケースもあり得ます。入退院のコントロールは非常に重要ですが、適切なタイミングを計りながらの実施となるため、現場でも苦労しながら対応しているということもご理解ください。
○ 病院再編・機能転換に伴う救急体制について		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
12	心筋梗塞や脳疾患などの重症患者については大曲厚生医療センターなど大きい病院へお願いするとのことだが、そこへ行くまで時間もかかることになり不安がある。	秋田県では新たな地域医療構想の策定にあたって、急性期や他の機能など各医療機関が役割分担しながら、県南医療圏の中で医療の完結を図ろうとしております。 この背景にはやはり医師の偏在という問題があり、そのために機能別の役割分担をしていかないことには医師の配置が難しいという状況です。これを踏まえて統合病院でも機能転換をせざるを得ないということをご理解ください。 重症患者の発生に伴う救急医療では救急隊との連携が極めて重要であり、救命率向上のためには、専門医が同乗するドクターカーや、ドクターヘリの活用が必要です。 最近では、発症した際の患者情報を共有するアプリケーションの運用が開始されており、これを活用しながら救急隊や各医療機関との連携により、迅速かつ的確な治療を目指してまいります。

13	急な体調不良やケガの場合に田沢湖診療所で診てくれないとなれば、角館に行くしかないが、その際救急車を呼ぶべきかどうかも判断しがたいところがある。	田沢湖病院を診療所化した場合でも、ウォークインで来院される方を対象とした、いわゆる一次救急については引き続き対応可能とする予定です。 また、症状により受診判断できないときは、秋田県で今年の１０月から開始しております医療相談電話「＃7119」（小児の場合は「＃8000」）をご活用ください。
○ その他のご意見について		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
14	病院に限らず地域から様々な施設や機能が縮小されていくということは、市民にとっては大きい不安を募らせることである以上、そのような際には市役所と市民が対話できる機会をもっと増やしてほしい。また計画が実行された後も、その進捗状況や実施効果などを説明していくべきである。	病院に関する説明はこれで終わりという考えではありません。病院に限らず様々な情報提供については、広報やホームページ、テレビ回覧版などで発信を続けてまいりますが、例えば今年度から取り組んでいるタウンミーティングの実施についても、今後積極的に開催していきたいと考えております。 また、進捗状況等報告する場についても、しっかり設けさせていただきたいと思います